

## 読書生活に関するアンケートの結果について（報告）

愛南町では、町民の皆様の読書生活の様子や公民館図書室等の利用状況、さらには図書館にどのような思いをお持ちなのかについて調べるため、町内の学校に通う中高生と社会人を対象に、それぞれアンケート調査を実施しました。

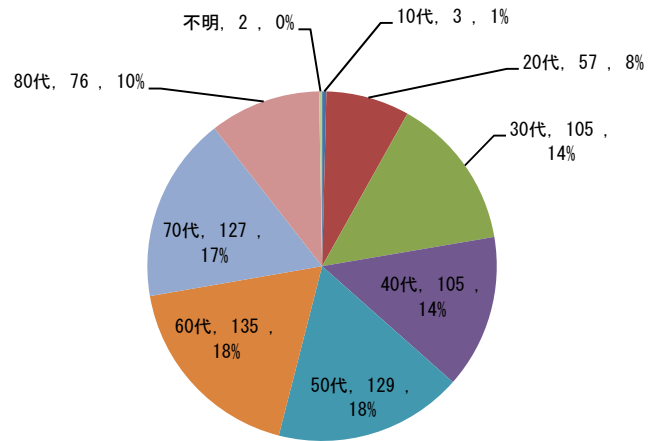
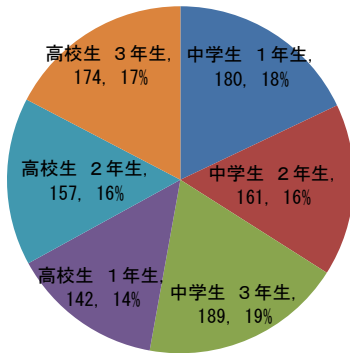
つきましては、次のとおり調査結果をまとめましたので報告します。

### 1 回答者の状況

中高生の回答者は 1003 人。ほぼ全ての生徒から回答をいただいています。内訳は中学生 530 人、高校生 473 人です。

社会人については、性別、年代ごとの調査対象数がほぼ同数となるように配慮し、2000 人にアンケート用紙を配布して、739 名の方から回答をいただきました。回答率は 37 パーセントになります。

1-(1) 回答者の状況（中高生）



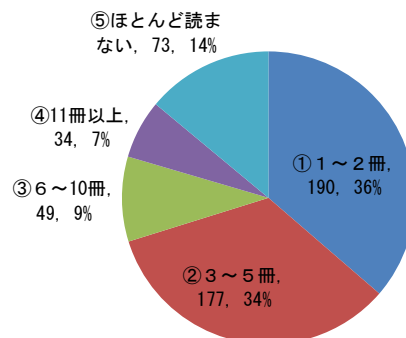
1-(2) 回答者の状況（社会人）

### 2 読書の状況等について

1か月に1冊以上読書をしている人の状況は、中学生で86パーセント、高校生で76パーセント、社会人で56パーセントという状況です。社会人の回答で最も多かった回答は「ほとんど読まない」の44パーセントで、社会人の読書離れが進んでいる結果となりました。数値を本の冊数に置き直し、1人当たり1か月の読書量をみると、中学生が2.6冊、高校生が1.3冊、社会人が1.2冊読書していることになり、中学生は高校生の2倍の読書量であることがわかりました。

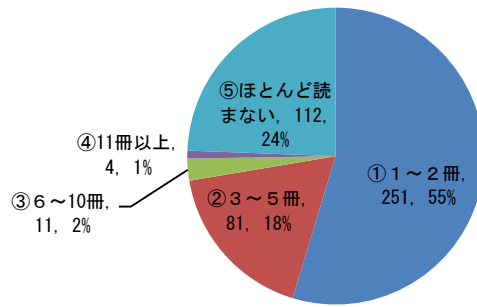
本の入手先については、全ての年代を通して「本屋」が最も多く、中学生については「学校の図書室で借りる」(290人)という回答も多くみられました。調べものの方法については、全ての年代を通して「インターネットで調べる」

2-(1) 1か月に読む本の冊数（中学生）



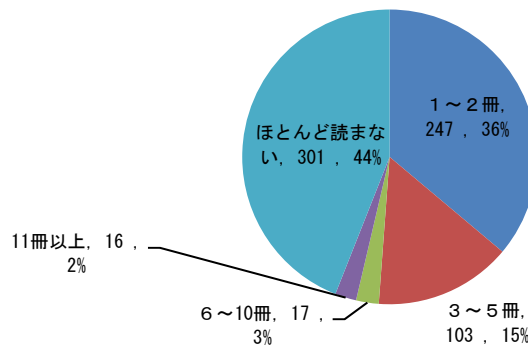
## 2-(2) 1か月に読む本の冊数（高校生）

が最も多く、社会人では「本等を購入して自分で調べる」という回答が265人と多いの  
に比べ、中高生ではかなり少ない(中学生56人、高校生36人)状況にあります。



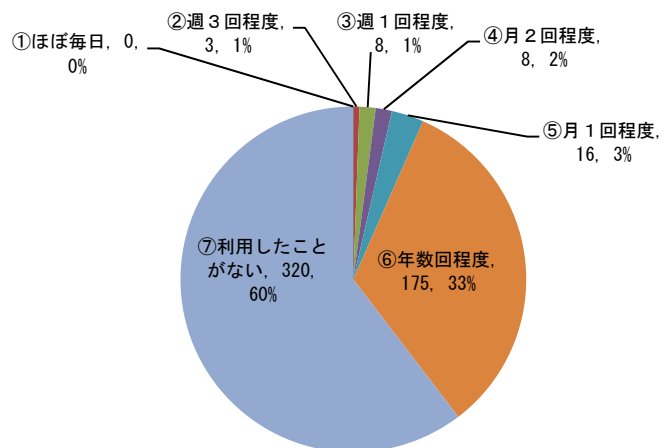
新聞は、68パーセントの社会人が定期購読をしており、電子書籍については、インターネットへの接続環境及びスマートフォンやタブレット端末の普及により、全ての年代で50パーセント以上の方が「既に使用している」か「興味がある」と答えています。

## 2-(3) 1か月に読む本の冊数（社会人）



## 3 公民館図書室等の利用状況

「利用したことがない」と回答した人が中高生で60パーセント、社会人では76パーセントと最も多く、次に「年に数回程度」が中高生で33パーセント、社会人で20パーセントと続いており、公民館図書室等があまり利用されていない状況が浮き彫りとなりました。利用しない理由については、全年代とも「本等自分で買う」が最も多く、「読みたい本がない」、「交通が不便」、「返却が面倒」等の理由が続きます。なお、社会人では図書室の閉館時間が午後5時頃ということもあり、「仕事の関係で利用できない」という回答が2番目に多くなっています。



## 3-(1) 公民館図書室等の利用状況（中高生）

利用する理由については、中高生では「室内で本を読む」が最も多く「本を借りる」、「室内で勉強する」が同数で続きます。社会人では「本を借りる」が最も多くなっており、中高生の利用者は室内での滞在時間が比較的長い傾向にあると思われます。

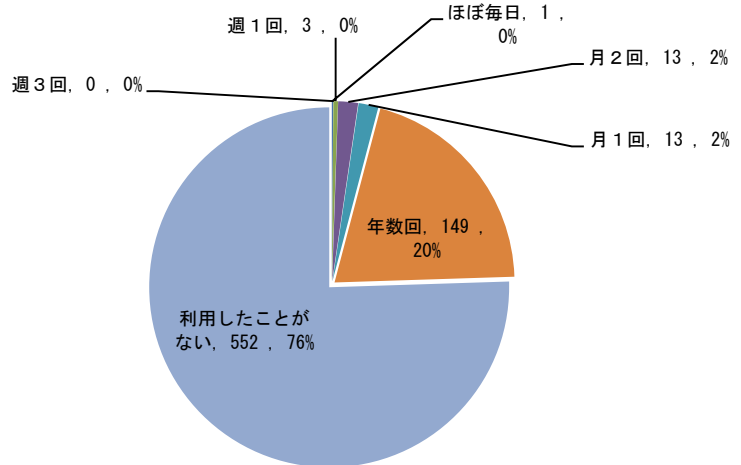
なお、他市町の図書館の利用状況については、中高生で延べ178人が、社会人では延べ307の方が「利用したことがある」と答えています。中高生の回答結果をみると一本松地域の中高生の30パーセントが「宿毛市立坂本図書館」を利用したことがあるという状況です。

#### 4 図書館の必要性について

中学生の 72 パーセント、高校生の 56 パーセントが「図書館があればいい」と答えています。「図書館に期待する理由」として、「多くの本を借りることができる」の 342 人を抑えて「勉強をする場所ができる」の 429 人が 1 位という結果でした。

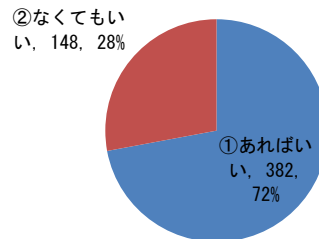
「図書館でどんなことができる」といいですか」の問いでは、「インターネット・Wi-Fi が使える」の 484 人が最も多く、次いで「皆が交流できる」348 人、「CD や DVD を借りることができる」335 人、「飲食ができる」330 人、「マンガを借りることができる」305 人、「静かに自主学習ができる」298 人が上位を占めており、「こんな図書館があったらいいと思うイメージを書いてください」の自由記述においても同様の意見が多くみられます。なお、中には「静かなところと話せるところを分けて欲しい」、「個室が欲しい」、「息抜きできる場所」等の意見もみられ、生徒たちは図書館に「本を借りる」こと以外に、「居心地のよい場所」、「勉強をする場所」を求める傾向があると思われます。

反対に、図書館がいない理由としては、「本や雑誌は自分で買う」156 人、「本を読まないから」137 人の順に多くなっています。

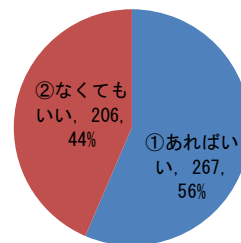


#### 3-(2) 公民館図書室等の利用状況 (社会人)

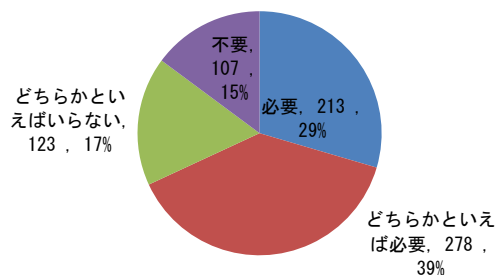
##### 4-(1) 図書館の必要性 (中学生)



##### 4-(2) 図書館の必要性 (高校生)

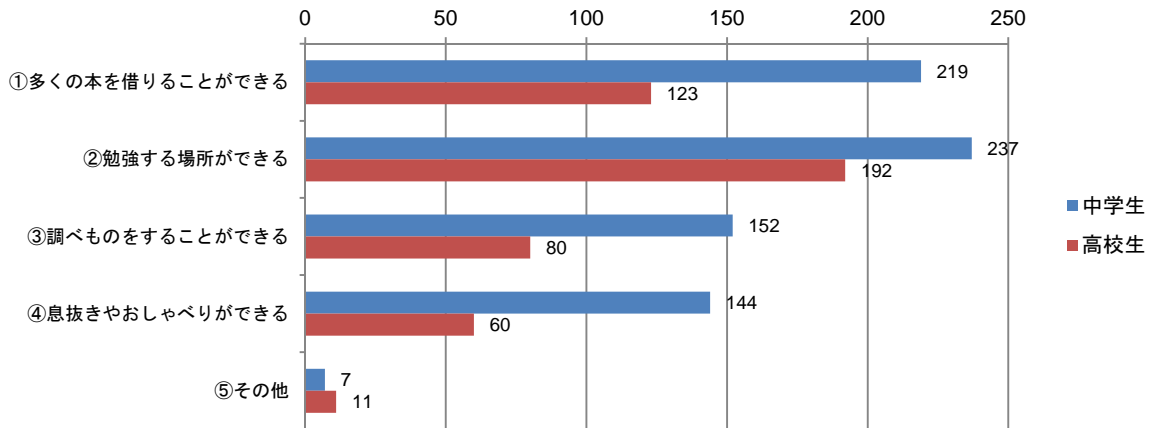


##### 4-(3) 図書館の必要性 (社会人)

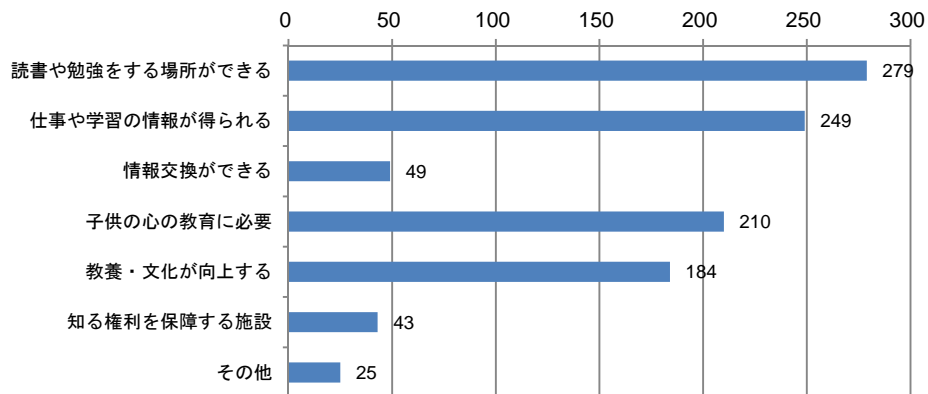


社会人の状況を見ると、必要だと思う人の割合は68パーセント(「必要」29パーセント、「どちらかといえば必要」39パーセント)、いらないと思う人の32パーセント(「不要」15パーセント、「どちらかといえばいらない」17パーセント)を上回りました。必要と思う理由としては、「読書や勉強をする場所ができる」279人、「仕事や学習の情報が得られる」249人、「子どもの心の教育に必要」210人、「教養・

4-(4) 図書館に期待する理由 (中高生)



4-(5) 図書館が必要な理由 (社会人)



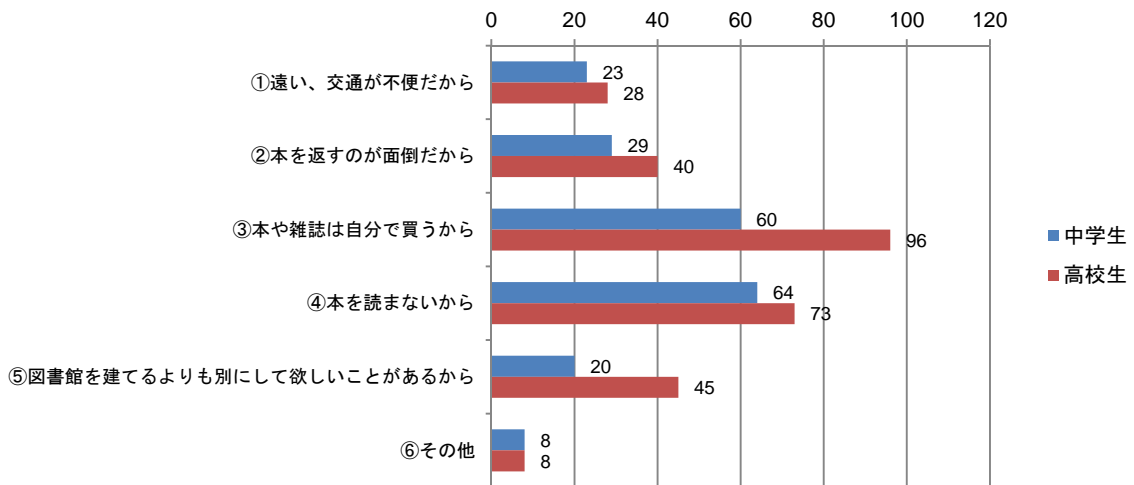
文化が向上する」184人と続いています。

図書館に望まれる施設・環境等については、「じっくり勉強等ができる」が243人で最も多く、続いて「子連れでも気兼ねなく利用できる」の228人、「パソコンがある」174人、「防災機能が備わっている」172人、「自動貸出、返却ができる」152人、「コミュニティ施設との複合施設」133人と続いています。

希望する蔵書については、「事典・辞書・図鑑」が253人で最も多く、「実用書」「児童書」が217人の同数で続き、「絵本」201人、「郷土に関するもの」が192人、「文芸書」180人、「新聞・雑誌」175人という状況でした。「郷土に関する」歴史、自然等の資料に対する要望が予想以上に多い結果となっています。

なお、理想の図書館のイメージを問う自由記述の代表的な意見としては、

#### 4-(6) 図書館がいかない理由



① 明るく、誰でも気軽に利用できる雰囲気

② ゆったりとくつろいで読書を楽しめる

③ 中高生が集中して勉強ができる場所

④ 静かに読書や勉強ができる空間とそれ以外の空間を分ける

⑤ 本の種類が多い

⑥ 展示スペース等がある

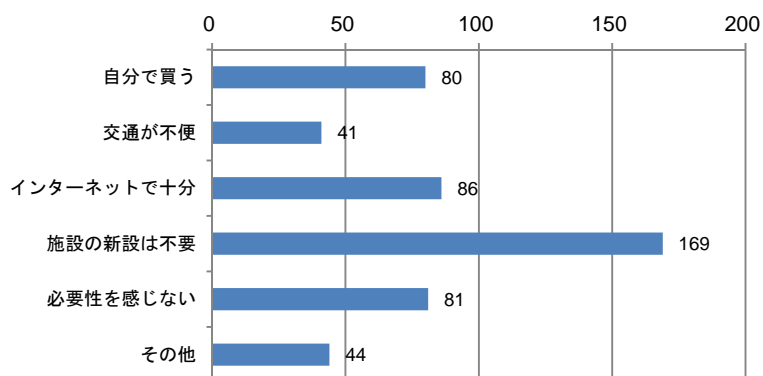
⑦ コーヒー等を楽しめる(カフェの併設)

⑧ 読み聞かせ等のイベントが催される

⑨ 交通が便利なこと

⑩ 開館時間の延長

#### 4-(7) 図書館がいかない理由 (社会人)



等が挙げられます。他には、「廃校になった学校を利用しては」、「現在ある施設の空きスペースを利用しては」、「公民館等の図書室を廃止し、中央に集めて充実した図書館にしては」、「他の図書館と連携し相互貸借できるようにしては」等の意見もみられました。

図書館がいかない理由については、「施設の新設は不要」とする理由が 169 人で最も多く、続いて「インターネットで十分」86 人、「必要性を感じない」81 人、「本等は自分で買う」80 人とほぼ同数で続いています。自由記述欄では「今ある公民館図書室等を充実させては」、「今ある公民館図書室等で十分」の意見のほか、「図書館整備よりも別にやって欲しいことがある(給食費の無料化、買物・病院に行く手段の確保、公園などの遊具の整備)」等の意見がありました。